レク森　定例観察会

5月観察会の活動報告

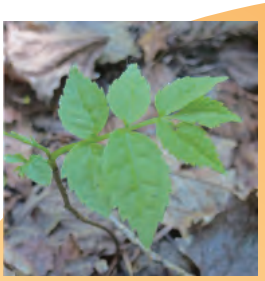
日　時：5月22日（日）　9：30～12：00
場　所：レクの森　森林展示館周辺
テーマ：「木の赤ちゃんのおかあさんさがし」
講　師：水本絵夢（教育林コーディネーター）

▲チョウセンゴヨウのまつぼっくり。よくみるとリスがたべのこしたのか、中にのこされた松の実から芽がでていました。

●今回は、木の赤ちゃん（実生）のはっぱの形などをヒントに、そのおかあさん（母樹）をさがしてみました。また、実生から母樹までの距離をはかり、母樹からどれくらいタネがとんでいったのかをしらべてみました。

ハウチワカエデ
（7m90cm）

←実生は母樹より葉のさけめがあさく、かたちもほっそりしています。



ナナカマド
（30m40cm）

→実生の葉は母樹の葉とそっくり。タネは鳥にたべられることでとおくまではこばれます。

→実生も母樹も葉の形はおなじ。カケスという鳥やリスなどによってタネ（どんぐり）はとおくにはこばれます。

ミズナラ
（45m70cm）

木のおかあさん
（母樹）

シナノキ
（5m90cm）

←実生の子葉は母樹の葉とまったくちがうかたちです。てんぐのうちわのようですね。

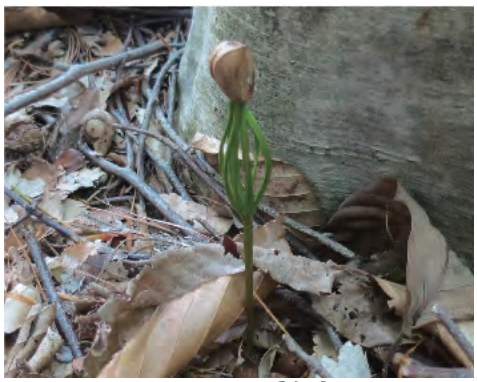
サワグルミ
（12m80cm）

←実生の子葉は母樹の葉とちがい、チョキがたの葉が二枚ずつつきます。タネには翼（よく）がついており、風ではこばれます。

<かっこ内の数字は木のおかあさん（母樹）から木の赤ちゃん（実生）までのきょりです。>

▲サワグルミの実生さがし中です。

▲カシワのドングリ帽子！



▲チョウセンゴヨウの実生です。